2023年8月31日（木）17：00～22：00

〈2日目〉

「ワークショップ①」

○前半　Kōrari（コーラリ）体験①
コーラリ（マオリ・マーシャル・ダンス）を体験するプログラム
○後半　戯曲『Purapurawhetū（プラプラフェトゥ）』（抜粋）シーンスタディ①

■コーラリ体験

参加者が円になり、お祈りをする。
本日から参加となる参加者の自己紹介を皮切りに、再び全員の自己紹介。

○**タネマフタ**　昨日と同じ「コーラリ」をします。ラグビーの前にやる「ハカ」ありますよね、今日は最後の方にあれをやります。オールブラックスというラグビーのニュージーランドのチームが試合前にやるのが「ハカ」です。そのようなものに近づけていきます。といっても、昨日のような武器（棒）を使うものになります。昨日と同じような長さの棒を取りに行ってください。

参加者全員、自分の体に合う長さの棒を選び、取る。

○**タネマフタ**　お祈りをした後に列になります。できるだけ隣の人と幅をとって下さい。

参加者は会場に広がり、列になる。

○**タネマフタ**　昨日やったことをゆっくりやります。今日は私が鏡になります。昨日のように円でやっているよりかは楽になると思います。

以降、「サイモンセイズ」（「サイモンが言った」と前置きされた動作だけをしなければならないゲーム）を転用した「タネマフタセイズ」を指導の中に織り込んで、ゲーム性を持たせながら、コーラリのワークショップが続けられる。

○**タネマフタ**　休憩の後に、言葉の方をやります。今日お渡しした紙を持ってきてください。

＜ハカの言葉のレクチャー＞

○**タネマフタ**　言葉を今から教えます。

以降、あらかじめホワイトボードに書かれた「ハカの言葉」を、タネマフタ氏の指示に合わせて参加者は復唱する。

○**タネマフタ**　最後のお祈りをします。自分のコーラリを持ってきてください。円になります。

参加者はコーラリを持ち、大きな円になる。お祈りの時間。

○**タネマフタ**　コーラリをしまってください。良い学びでした。

■戯曲『プラプラフェトゥ』（抜粋）シーンスタディ・1日目

○**ブライア**　みなさん、こんにちは。日本語バージョンの『プラプラフェトゥ』がこれから出来上がることに対して期待しています。何でも自由にやってくださったことが、正しいことになります。

これから1回目のシーンについて内容をお話しします。ところどころマオリの文化が入っているので。あと、ひとりひとりの役、出てくる場面についてもお話します。

その後、2つのグループに分かれて、実際にシーンをやっていきます。1つのグループに1人の演出家がつきます。

原稿を送っているのですが、全部読めましたか？　質問があれば最後に聞いてください。今からストーリーについて話します。

＜ブライアによるシーン解説＞

○**ブライア**　トゥクトゥクパネルというのが出てきたと思うのですが、それはもうご存知ですよね？　ミーティングハウスのオープニング用にトゥクトゥクパネルが何枚か必要なんですが、最後の1枚を、普通は2人で編んでいくものなんですけれど、1人で編んでいるところから始まります。

1人で編んでいるのがタイラーという人なんですけれど、タイラーは小さい時にとてもかわいそうな思いをして、養子に迎えられたんですね。ミーティングハウスというのは、普通はそこに属している人たちのものなんですけれど、タイラーは他所から入ってきた人で養子です。

ブライア氏とタネマフタ氏が立ち上がり、トゥクトゥクパネルを編んでいるようなジェスチャーをする。

○**ブライア**　トゥクトゥクパネルは裏と表があって、普通は両方から紐を通しながら、渡しながら、またこちら側の人に渡して、という編み方をします。彼は1人なので、自分で両方をやらなくちゃいけない。タイラーの役になった人は、こういう動きをしなくちゃいけないということです。

クイという老女がその後出てきます。クイはベールをかぶっています。クイが出て行った後にタイラーが来たので、タイラーはクイが誰なのかを知らないです。

その部屋の窓から海が見えるんですけれども、海にはおじいさんがいて、パウア、アワビを拾っているのが見えます。そのおじいさんっていうのがホヘパというのですが、ホヘパは精神に問題を抱えている。本当はアワビを探しているんじゃなくて、自分の死んだ息子を探しているんです。

ホヘパおじいさんはいつも海でものすごく混乱していて、本当は息子を探しているのにアワビを探している。それが、どんどんどんどん、子どもがどうして死んでしまったかという事実が分かっていく上で、最終的に彼の精神状態は安定し、自分自身を取り戻した。

さっき出てきたおばあさん、クイが、ひとりで編んでいるタイラーに、ホヘパおじいさんに昔どんなことがあったかという話をしていきます。

アギー・ローズという女性が出てきて、ホヘパおじいさんが若い頃、アギー・ローズと恋をした、という話から始まります。

クイがホヘパおじいさんのいる海のところに行ったところで、ホヘパおじいさんがアギー・ローズと恋に落ちたシーンに変わるんですね。実はクイは、アギー・ローズだったのです。アギー・ローズは粋ですごく強い女性でした。

その場面にくると、ホヘパおじいさんは、ハンサムな若い頃に戻ります。アギー・ローズは「自分のことを落とせないでしょ」というスタンスでいますが、ホヘパはすごく詩人で、アギー・ローズを自分の方へ向かせてしまう。劇の中では実際は2人でタンゴを踊るのですが、ここではタンゴじゃなくていいので、何かダンスをしてください。

その場面は記憶だったので、その記憶が終わって、またホヘパおじいさんは混乱したおじいさんに戻り、アギー・ローズはクイに戻ります。

パウアが何だったか覚えていますか？　アワビです。普通はアワビは岩にくっついているのですが、実際はそんなものはなくて、おじいさんは一生懸命ガリガリやっているから手がボロボロ。

ホヘパには別の息子がいて、その息子マタが、ホヘパの息子を殺したのですが、この

シーンではそのマタが入ってきます。

ポウナムというのはこれ（首飾りを持つ）なんですけど、本来はホヘパとアギー・ローズの赤ちゃんのものだったポウナムをマタがつけている。ポウナムをつけていることで、マタにとって「僕はリーダーになれるんだ」というつもりでいる。

ホヘパは、「なんでそれを持っているんだ」ということで少し正気に戻るんですが、そうしたらマタはホヘパおじいさんをこらしめようとします。

マオリはコミュニティーというのが重要です。本来はタイラーは養子なので、リーダーになれる存在ではないんだけれども、おじいさんも他の人たちもタイラーを信頼している。海でホヘパおじいさんがマタにこらしめられている時に「タイラー、タイラー」と叫ぶんですけれども、マタがタイラーに「お前はどっか行ってろ」と言うところで1番目のシーンが終わります。

何か質問ありますか？

○**参加者**　タイラーは、ホヘパの養子じゃないんですか？

○**コーディネーター**　これは私も知っているので、私からお話ししてもいいですか。ホヘパは酋長だったわけですよ、今でも酋長なんですけれど。ホヘパはアギー・ローズとの間に産まれた赤ちゃんがいたわけです。

○**参加者**　タイラーは、ホヘパとかアギーの養子になったわけではない？

○**コーディネーター**　違います。単にコミュニティーの養子。かわいそうだということで、コミュニティーで助けましょうとなった。

○**ブライア**　実際はクイとアギー・ローズは同一人物なんですけれど、最初から出てくるクイはすごいおばあさん、アギー・ローズはすごく若い。なので、1役ではなく2役に分かれてください。

他に質問はありますか？　2グループに分かれるんですけれども、演出家に立候補する方。

○**参加者**　はい！（拍手が起こる。）

○**ブライア**　もう1人。どうですか？　男役が少ないので、女性の方で、誰か。

○**参加者**　やり方が分からない……。

○**ブライア**　助けるので、大丈夫ですよ。（演出家が決まり、一同、拍手する。）

○**ブライア**　2人のクイが必要ですね。では役を決めながら2人のグループに分かれていきます。

ブライア氏と参加者、役を決めながら2グループに分かれ、それぞれ円になって読み合わせを始める。タネマフタ氏は英語でマタ役として参加するほか、ダンスを踊る2人に振り付けをする。
2グループともに、ブライア氏へ質問をしながら、動いてシーンを作っていく。

＜戯曲『プラプラフェトゥ』（抜粋）シーンスタディ・１日目の発表＞

■戯曲『プラプラフェトゥ』（抜粋）シーンスタディ・1日目の振り返り

○**ブライア**　どうもありがとうございました。言葉がありません。2つのグループに分かれた時、どんなものができるか想像ができなかったので、それを今見ることができました。

自分たちは自分たちのことしか知らないから、そちらも知ってると思って原稿を書いているんですけれども、知らないことをたくさん質問してくれたことで、「そうか、自分の知っていることはみんな知っているわけではないんだな」と思い、そういう意味でもものすごく面白かったです。この役やストーリーを通して、文化的な違いを感じましたか？　どうもありがとうございました。（参加者一同、拍手）

○**参加者**　文化的な違いというよりは、私は日本人で、両親も日本人なので、自分のルーツとか、山と川の話とかコミュニティーの話とかがすごく希薄になっている現代に生きているので、考えさせられるというか、気付かされるという気がしています。マオリの人たちはこう考える。じゃあ私はどうなんだ、ということをこの2日間考えています。答えが出せたらいいなと思っています。

○**参加者**　東京だとそういうのが希薄だと思うのですが、夫の実家が田舎なので、日本の中でも地域によって違いはあると思う。

○**参加者**　（ブライア氏とタネマフタ氏に）今、観てもらって、日本人の仕草とか演技がそちら側からして違うなと思うことはありますか？

○**タネマフタ**　みなさんそれぞれ役になりきって、自分の表現の仕方で表現できている。リハーサルの時と最後に上演した時とは違っていて、とても影響し合うことができたのではないかと思う。ここの空間とか与えられた時間でこれができたということに感動しています。

○**ブライア**　すごいエネルギーがあった。タイラー役の方がやっていた編み方がものすごく良い。

○**タネマフタ**　クイとタイラーの役がくっついたり離れたり、編み込まれていくという表現の仕方がものすごく印象的だと思った。薄っぺらくなくて、とても深みのある表現で、素晴らしかった。

○**ブライア**　日本語で聞けるのが初めての経験でとても良かった。

○**参加者**　ポウナムが先祖代々受け継がれていることは分かったのですが、ポウナムは実際に土地の継承者の印として使うものなんですか？

○**ブライア**　今回出てくる、先祖代々から受け継がれているポウナムは、酋長などのシンボルです。（作中の）マタは本当は持ってるはずがないので、盗んでつけているということです。

○**参加者**　今質問にあった、土地の所有者（継承者）、という意味も含まれるんですか？

○**コーディネーター**　酋長が土地を持っているということです。

○**参加者**　土地を持っているということは、従わなくちゃいけないということですか？家を建てるにしても、土地が必要ですよね。

○**ブライア**　酋長がその土地を所有しているのではなく、酋長が守るということです。土地はみんなのものです。

○**タネマフタ**　酋長は次の世代にその土地を残すために、守る人。ヨーロッパ人の移民が入ってくることで、その土地を守るだけじゃなくて、誰のものということをはっきりさせなきゃいけなくなり、所有権が生まれた。それ以前は酋長は守る人だった。

○**参加者**　神様の名前を言うところの意味を知りたいです。

○**タネマフタ**　「テ・ラー」は太陽、「マラマ」は月、「タンガロア」は海、「ターフィリ」は風。

○**参加者**　実際にこういう権力争いは起きるんですか？

○**ブライア**　『プラプラフェトゥ』の中では、ホヘパはタイトル（土地の権利書）は持っていなかった。アギー・ローズが持っていってしまった。

○**コーディネーター**　マタは債権者の名前を知ってるけれども、お父さんにタイトルをくれといっているということは、そこにまたマオリのものがあると思うんですけれど。昔はそんなものがなかった。マオリのなかでは、昔はペンダントで持ち主ということに

なっていた。ヨーロッパの人がやってきて紙に名前を書くようになった。そういう流れなんですけれども。

○参加者　マオリの人は自分のアイデンティティーを大事にされていると思うんですけど、映画や演劇ではマオリの方々はまだ少ないという話を昨日聞きました。マオリの話を、今日みたいな日本人とか違う人たちが作ることについては、どう感じますか？

○タネマフタ　マオリの人と一緒に、このような状態でやるのであれば良い。私たち自身とか精神的なものを含めて安全だと思っている。精神的なものが入ってきて病気を起こすということもある。

マオリの方法としていつも儀式があってお祈りもして、その上でいろいろなことをやるから、それをなくしてやるということは、正気の状態を保てない。だから、マオリの人と一緒にやらないと成立しない。

日本に比べたらマオリの歴史は浅いけれども、5000年くらいの歴史があるので。

※編集注：「5000年」に関して、ニュージーランド島（独立以前を含めて）では800年の歴史があり、パシフィック諸島ではおおよそ2000年から3000年の歴史、そしてその前に台湾から流れ着くまでの年月があるためだ、と後日タネマフタ氏は語った。

○コーディネーター　最後のお祈りをするので、立ち上がってください。みなさん、手を繋いで。

全員で円になり、目を瞑り、手を繋ぐ。タネマフタがお祈りの言葉を言う。

記録：EMMA